

# 青少年 とちぎ

平成22年3月15日

第187号

## CONTENTS

市町村民会議全体連携会議  
リーダーに聞く  
市町村民会議の活動  
育成活動の実際・意見  
各種事業報告  
新規賛助会員の御紹介



海浜の初日の出

<http://www.z-kodomo.or.jp/>

【発行】財団法人とちぎ青少年こども財団 宇都宮市駒生1 1 6とちぎ青少年センター内 TEL028 621 1611 FAX028 621 1613 E-mail:z-kodomo@circus.ocn.ne.jp



## 青少年育成市町村民会議 全体連携会議

2月10日(水)、県内の全青少年育成市町村民会議が、地域における運動の連携の在り方や青少年育成に係る諸問題について話し合うことを目的とした「青少年育成市町村民会議 全体連携会議」がとちぎ青少年センターで開催されました。

今回の会議には、市町村民会議・市町・栃木県青少年指導員・青少年育成指導員会などから53名が出席。会議の冒頭で、とちぎ青少年こども財団船橋理事長から「世界的な経済混乱による若者の就職難に加え、フリーターやニート数が高水準で推移するなど、若者の社会的自立の遅れが深刻化している。このような中、次代を担う子どもたちが、よりよい環境の中で、心身ともに健やかで、人間性豊かに成長できるためには、家庭、学校、地域そして社会全体が連携し支えあうことが大切である。」と、地域における青少年育成運動推進の重要性についてのあいさつを述べました。

会議では、平成22年度の県民会議事業についてや、各地域の市町村民会議活動の状況や問題点等について話し合いが行われました。

話し合いでは、「運動を進めながらも、青少年育成に係る運動は終わりのないものだ実感している。」「児童生徒の減少に加え中学校の統合もあり、今後の活動をどう進めていくのか課題がある。」「市町村民会議が全体で集まった中で、県全体として、行政に働きかけるような仕組みができるような連携をしたい。」「参加団体の意見をいかに吸い上げて、市町村民会議の活動に生かすか検討している。」など数多くの意見が出され、来年度の活動・会議等で反映させていくこととしました。



# 「とちぎの青少年を育てるために」

～企業・団体のリーダーに聞く～

栃木県更生保護女性連盟 眞田 富美子会長

今回は、青少年育成県民会議常任委員として、また当財団の事業に毎年ご寄附いただき、青少年の健全育成に貢献いただいております栃木県更生保護女性連盟の眞田富美子会長にお話を伺いました。



更生保護女性連盟について具体的に教えてください。

更生保護は、罪を犯した人達の立ち直りを助けるもので、刑務所を出てきて身よりがなかったり、就職がなかったりする人に、社会復帰するまで一時的に施設で保護することです。一度罪を犯すと社会に出てきても社会に入れなくて苦勞するということが多く、そういう人は再度罪を犯すことが多いので、少なくとも再犯は防止しなくてははいけません。再犯が減れば犯罪全体が減ることに繋がります。本来更生保護の活動は地域ですが、私達は県全体で連盟を作って、地域活動がスムーズに行くように調整、協力したりとか、連盟でなくてはできないような事、例えばリーダー研修とか、情報交換とかをやっています。愛の募金もその中の一つで、地域の会員の人が大変努力して集めて、保護施設や刑務所のような矯正施設にお役に立てただけと寄付しております。

私達は女性であること、地域で活動していること、あくまでもボランティア団体であることが、特長というか強みです。ボランティアの原点は優しさがなくて続かないと先輩に言われたことがあります。女性として優しさをもってやっています。

ただ一番大事なことは、犯罪が起きてからの青少年の健全育成は難しいので、犯罪が起きないように青少年健全育成や子育て支援などを柱としています。

社会を明るくする運動も長い歴史がありますが、どのような健全育成につながる取組をしてこられたのですか。

社会を明るくする運動も、戦後間もない頃、戦争で親や家を無くした少年の犯罪が多く、その少年を立ち直らせるために始めたのが最初で、今年で60回になります。連盟としても50年やっているのでもあまり目立ちませんが、それだけ地域の中で活動していると言っていると思います。

また、宇都宮に「星の家」という自立援助ホームがあり、宇都宮地区会としては月2回ここで食事作りをしています。先日、この「星の家」の中に、子ども達の居場所となる「サロンだいじ家(け)」を作りました。養護施設を出た子ども達の家代わりになればと期待しています。

ところで、1・2月には中学で立志式がありますが、そのときに宇都宮の中学2年生約4,200人あてにメッセージを入れた凧人形を作り、学校を通じて生徒に渡しています。

今は、様々な年中行事や立志式のような伝統ある行事が崩れてきていますが、日本人の心の拠り所とする処がなくなっていくのではないかと心配です。親が子に伝えるべき処はしっかり伝えてほしいと思いますが、こども財団としても、幅広くなった家庭のあり方、子どものあり方を見直すことが青少年健全育成の中で大事なところではないでしょうか。

子どもたちの居場所という点では、青少年センターの意義も大きいと感じます。

たしかに、青少年センターのように青少年のたまり場になっている所に、ボランティアで指導員が1人が2人いるといいと思います。



理想としては、青年が中心になってつくる団体の人たちがリーダー的な役割をするといいですね。青少年は集団になると、わーと騒いで周りに迷惑をかけてしまいがちになる傾向がありますが、個人個人は本当は良い子だと思うので、それをどう捌くかが重要ですね。できればその中から1人でもリーダーを作れるといいですね。

丁度とちぎ青少年センターができる頃、県議会の厚生環境副委員長をしており、建設の現場を見に行ったりもしました。人それぞれ考えはあると思いますが、先ず施設を造る、形から入るのも大切なことだと思います。

真田さんが更生保護に関わられるようになったのは、どのようないきさつだったのですか。

私は元々会員ではあったんですが、県会議員を辞めて会長に就任しました。会長ではありますが、ボランティアというのは自ら進んで働くものですから、会長も会員もみんな同じなんですよと言ってます。

各地区更女会の会員の合計が今年は少し減りまして3,000人を割ってしまいました。どこの団体もそうかと思いますが、新しく若い方が入らなくなってきました。でも、高齢となった方達もまだまだ頑張ってくれ



ているのもこの会ならではの会なと思います。会員の方達は、自分で会費を出して活動資金としていて、皆さん素晴らしいと思っています。

また、去年宇都宮で更女サロンというのを作りまして、月1回集まって立志式の菜づくりなどしています。これは、材料や時間、同時に美的感覚も必要ですが、いつも大勢来ています。更女には長い歴史があるということだと思います。社会を明るくする運動や犯罪のないまちづくりなどは地域でやるべきことで、先輩が作った優しさや志の高いものは続けていかなければならないと思います。組織としての会員の皆さんの活動も活発ですばらしいと思います。



毎年「愛の募金」から寄付をいただいているほか、少年の主張県大会でも発表した中学生に図書券をいただき、ありがとうございます。

少年の主張は大変感動を呼び素晴らしいです。私としては、その子達がその後集まって何かをすると面白いなあと思っています。その子達が次の世代を育てるような仕組みがあると、それが先ほどの居場所づくりにもつながるのではないかと思います。

最後に、青年時代のエピソードがありましたらお聞かせください。

昔、山登りをしていましたが、荷物は自分で背負わなくてはならないなど、山登りの厳しさと同時に、団体行動したときの自立心を教えられました。そのときは非常に辛かったですが、それ以上に山や自然の美しさに感動し、自然と対峙しながら生きることのすばらしさを知りました。自然と対峙するということが自分の生き方の根本にあると思います。今でも機会と体力があれば登りたいと思います。

今は自然と向き合う機会が少ないですね。

それは自分から求めないから。人生は求めていくべきものだと思います。そして、若い人達が夢を実現できるような社会にしていくことが我々大人の役割だと思います。

聞き手 (財)とちぎ青少年こども財団 育成担当 須田



# とちぎの青少年育成市町村民会議

21年12月に大田原市青少年育成連絡協議会が加盟し、現在20団体となった青少年育成市町村民会議について、その活動内容を紹介するシリーズです。

## 高根沢町青少年健全育成推進協議会

高根沢町青少年健全育成推進協議会は、平成5年に設立しました。主な活動としては、少年指導員による巡回パトロールや保護司・更生保護女性会による『社会を明るくする運動』の街頭啓発とミニ集会、青少年健全育成大会の開催などです。

このうち青少年健全育成大会は、日頃頑張っている小中高校生を応援するイベント、『きらきらフェスタ』として平成18年度から開催しています。

今年度はインフルエンザの流行の影響により、出場できない団体もありましたが、太鼓、ダンス、バンド演奏、合唱、合奏、ピアノ独奏など、町内の小中高校生11組が元気にステージ上でパフォーマンスを披露しました。子どもたちの頑張っている姿に、一般来場者からは「とても素晴らしかった。来年も続けてほしい。」「元気をもらいました。」



きらきらフェスタ2009 出演者と実行委員・ボランティアの皆さん

「みんな、輝いていました。」  
「自分もやってみたくて思いました。」などの声が上がりました。

これからも、高根沢町の青少年がきらきらと輝き続けるよう、支援していきたいと思いをします。

## 那須町青少年育成協議会



「家族の日推進大会」の様子

那須町青少年育成協議会は地域や学校、PTAの代表者、青少年育成指導員等で構成されており、昭和49年の設立以来、青少年の健全育成を図ることを目的にさまざまな活動をしています。

町では「安心安全なまちづくり」を目指し、有害図書等の立入調査、夜間巡回、社会を明るくする運動など、学校や家庭、地域の連携による青少年の非行防止の取り組みをしています。

協議会主催の「家庭の日推進大会」では、小・中学生による家庭の大切さや家族の絆に関する「作文コンクール」や発表を行い「家庭の日」の普及・啓発に努めています。

また、小学生や中学生を対象にした「サマーキャンプ」・「子どもフェスティバル」・「ウィークエンドサークル」等の事業を展開し、子どもたちと一緒に活動を通して青少年の健全育成に取り組んでおります。

今後におきましても、「学校」や「家庭」、「地域」と十分に連携を図りながら、青少年の健全育成を目指して各種事業を展開していきたいと思いをします。



「子どもフェスティバル」の様子



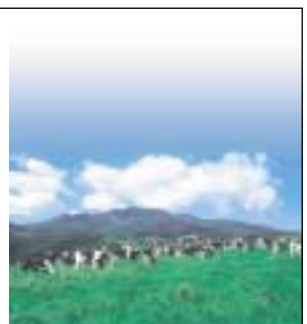
標高1,200m  
爽やかなみどりの空間大笹牧場ようこそ  
風、空、雲、空気-----すべてが新鮮  
おいしいお食事を楽しんでいただけます  
レストランで舌つづみ

霧降高原道路(無料)終点  
入場・駐車無料 年中無休

TEL 0288-97-1116  
FAX 0288-97-1120

<http://www.tochiraku.or.jp/oozasa/>

(株)大笹牧場 〒321-2792 栃木県日光市瀬尾字大笹牧場3,405





## 冬のファミリーデー



なす高原自然の家

なす高原自然の家では、1月30日(土)~1月31日(日)の1泊2日で、「冬のファミリーデー」を開催しました。たくさんの応募の中から抽選で選ばれた70名のご家族が参加されました。

冬的那須高原ではめずらしい程の穏やかな天気の中、ミニかまくら作り、ソリスベリ、スノーシュー(西洋かんじき)体験、雪灯籠作りと、参加された皆さんは雪遊びを楽しまれたようです。



ミニかまくら作り



スノーシューハイキング

### 参加者の感想

子どもにとってははじめての雪遊びでした。最初はどうなることか心配でしたが、子どもも私たちも楽しく体験できて良かったです。子どもたちはこんなに多い雪を見るのが初めてでとても喜んでいました。親子でゆっくり過ごせて良かった。清掃など親子で一緒に協力してやるのが良かった。スノーシューは下の子が3歳でちょっと早かったですが、良い経験になりました。「雪のところで遊んだね」と、しばらくお話しのお話にてでることになりそうです。



## 第56回企画展 地球環境展 めざせ!エコ博士 ~君からはじまるエコロジー~



グランディ科学ランド

期 日：3月20日(土)~4月11日(日)

内 容： アトラクション「めざせ!リサイクルの達人」

サイエンスショー「電気をエコに科学しよう!こちらエコエコ研究所」

工作コーナー「ライオンがざぐるま(無料)」「地球ペンダント(100円~)」

燃料電池機関車

ポイントラリー、スタンプラリー、工作等を体験すると乗車券がもらえます。イベント

3/20(土) 霧箱の実験とはかるくんを利用した放射線の測定

3/28(日) ソーラークッカーをつくろう

その他、環境・エコについて楽しく学べる展示品がたくさんあります。

ぜひお越しください。



## 海浜の初日の出



栃木県立とちぎ海浜自然の家

12月31日(木)~1月2日(土)の2泊3日で、主催事業「海浜の初日の出」が行われました。

初日は、たこ作りや体育館でのスポーツなど、皆さんそれぞれに選択活動を楽しんでいただきました。その中の一つ、和だこ作りでは、和紙に絵をかくことから始め、竹ひごや糸の左右のバランスに注意しながら、完成させていくまでの工程に大人の方も夢中になって取り組んでいました。外に出て自分のたこが揚がったときのうれしそうなみなさんの顔!小雪も舞う中、広場は寒さも吹き飛ばす笑顔であふれていました。

そして、元日の朝。日の出の予定時刻6時49分。天候は良好です。海浜自然の家のすぐ足下には太平洋が広がっています。水平線付近には少し雲があったので、待つこと5・6分。広場に出て

きたみなさんで気持ちを一つにして朝日が差し込んでくるのを待ちました。やがて、サアッと音が聞こえてきそうなほどのオレンジ色の光がひと筋に現れ、海面を照らし始めると、見ていた方からは自然に感動の声があがりました。

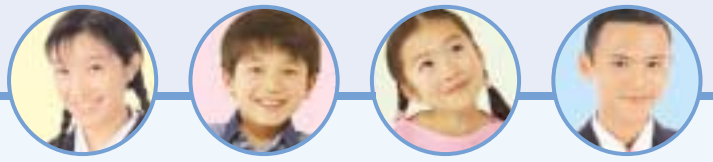


その他にも、もちつきをご覧いただいたり、正月遊びや海浜自然の家ならではのプログラムを楽しんでいただいたりして、過ごしていただきました。

今年も「初日の出」が観賞でき、新年のよいスタートが切れました。

### 参加者の感想

すばらしい初日の出を拝み、一年のスタートよし!たこ作りも童心に返って楽しみました。年末年始、家族にとってゆとりのある、様々なことに感動できる時間となりました。たいへん充実した施設でびっくりしました。別の事業や夏の季節にも利用したいです。



## 「坂の上の雲」に学ぶ

栃木県青少年指導員（矢板健康福祉センター） 飯島 嘉代子

NHKドラマ「坂の上の雲」には3人の若者の姿が生き生きと魅力的に描かれています。極貧の状況の中にあっても、「夢」を抱き、貪欲なまでに突き進むハングリー精神露わな姿です。3人のうち1人は、日露戦争で連合艦隊作戦主任参謀となった秋山真之、もう1人は陸軍大将となった秋山好古、3人目は俳人正岡子規です。周囲の大人たちもまた彼らを支え、包み、勇気づけ、あるいは献身し、人として大成させていこうとする気概を十分に発揮します。

現代の子どもたちに視点を置いてみましょう。溢れんばかりの情報の中で溺れそうになり、必死にもがき苦しんでいます。夢を持とうとしても、それどころではありません。目の前の情報をどうにか処理しなければ身動きができません

ん。なんとかしなければと思ながらも泥沼にはまっています。そんな光景が浮かび上がってきます。

子どもたちが「夢」を持つというのはどういう意味を持つものなのでしょうか。

「夢」を持つことができれば、困難に出会ってもその苦しみ乗り越える力ができます。「夢」を持つということが、その人間を強くするのです。「坂の上の雲」の3人それぞれが「夢」を持ち、「夢」に支えられ「夢」を実現していく過程は、「夢」を持つことの大切さや素晴らしさを私たちに伝えてくれています。

私たちも、子どもたちに「夢」を持たせられるように努力しなければならないのだと思います。

## ふるさと

栃木県青少年育成指導員（佐野市） 栗原 哲夫

「おはようございます...。」

厳寒の朝、小さな声が通りすぎて行く。

学校支援ボランティアに挨拶をする登校の様子である。

6年生を先頭に、真ん中に1年生を挟んで一列に進んで行く。寒さのためうつむいて歩く子。おしゃべりをする子は少ない。全般的に行儀が良い。しかし何かもの足り無さを感じるのは私だけであろうか。大変気になる事だ。

ふるさとの山に向けて言うこと無し ふるさとの山はありがたきかな

啄木の詩の一節が思い浮かんだ。

少子化となり久しい。登下校の時や家に帰ってから子ども達の騒がしい声が余り聞こえなくなってしまった。駄菓

子屋さんの前にたむろして無邪気に遊ぶ姿。野原や小川の岸辺に咲く草花を摘んで花飾りや魚釣りをして遊んだ四季折々の楽しい思い出。大人になって思い出す子供の頃の風景それがふるさとだと思うのだが、今の子供達が大人になった時、はたして自分のふるさとは、心に残る思い出が有るのか心配になる。

心身の成長は、勉強や読書だけで成り立つものではない。自然を観察し、人とふれあい、四季を感じ愛おしむ。健康な身体には健康な精神が宿る。地域の皆様の御協力を頂き、良きふるさと作りに努力していきたい。

「誰か注意すればいいのに」

それって自分に言いたかった言葉かもしれない。

未成年者の喫煙は、大人一人ひとりが自覚し、社会全体で取り組む問題です。

JTの活動

私たちがJTを全国各地で「未成年者喫煙防止協議会」の開催や「啓発キャンペーン」の実施など、地域に密着した活動に取り組んでいます。

未成年者の喫煙は法律で禁じられています。

20歳になるまで  
たばこは  
吸わせない。  
**NO!  
UNDER  
20**

## 私の思う子ども達の未来へ

栃木県青少年育成指導員（上三川町） 渡辺 喜保

男の子3人の父親として、ありふれた地区の育成会に入会したのが、青少年の育成活動にかかわるきっかけでした。当時の子ども会は、地区単位での活動が主でしたが、大きな活動のために連合会を組織してはいかがかという話題が持ち上がり、1978年4月に上三川町子ども会連合会が設立されました。

私は、その当時会社員として、また子ども会の役員として、そして町行政からも仕事を受け、3つの仕事をフルに活動していた状況でした。しかし、自分がスポーツを中心に活動していたこともあり、大変とは思いつつも様々な大会に、時には親子全員で参加するなどしていました。

子ども会連合会が設立後、中央公民館に拠点を置き最初に提案をされたのが、ソフトボール大会、スキー教室、ウォークラリーでした。当時はソフトボールが盛んな時代で、子どもの数も多く各単位チームとして30前後のチームが参加し、盛大に開催されていました。私は審判の資格を持っ

ていましたので、仲間の応援をいただきながら活動に携わりました。大会は、公式戦ながらに繰り広げられましたが、その後15年ほど経ると子どもの人数が減少し、各単位でのチーム編成が困難になり中止となってしまいました。

現在を見てみると、子どもが野山を自由に駆け回る光景は遠い過去で、子ども達は、家の中でのパソコン・ゲーム・携帯電話など発達した情報機器に興じて、子ども同士の交流も少なく、昔のようなガキ大将もいなくなるなど寂しい限りです。

私も、早いもので会社を退職し数年たちます。現在も様々なボランティア活動を続けておりますが、子どもは宝だということをつくづく思います。未来を築く子ども達のため、今後の課題として季節に合わせた遊びを工夫したり、道具を作ったりしながら、世代を超えてコミュニケーションを広げていけるような環境づくりに目を向け活動していきたいと思っています。



## ネット被害・ケータイ依存について意見を語る

11月29日（土）、パルティ（とちぎ男女共同参画センター）において「青少年を有害環境から守る県民のつどい」を開催しました。

開会式では、麻生副知事から「インターネットや携帯電話等の普及は、青少年に少なからざる影響を与えているところであり、それらによる有害サイトなどへのアクセスやネット上のいじめが、大きな社会問題となっております。青少年の健全育成を図る上で、青少年を有害環境から守ること、そして、家庭の大切さなどを改めてご理解いただき、具体的に実践していただければ幸いです。」というあいさつがあり、その後、社会を明るくする運動作文や少年の主張発表大会の優秀作品生徒の発表が行われました。幕間では、栃木県出身で全国的に活躍している若者を代表し、「ざ・たち」によるコントが披露されました。会場は、二人の温かな人柄が醸し出す和やかな雰囲気になりました。

後半は、「忍び寄るネット被害・ケータイ依存から青少年を守るために」というテーマでパネルディスカッションが行われ、石川県野々市町の町民会議・栃木県PTA連合会・大学生の3人のパネリストによる討論が行われました。

このパネルディスカッションのパネリストの意見概要等は、次ページのとおりです。



パネリスト  
「ののいちっ子を育てる町民会議」  
事務局長

山本 邦継さん

運動を始めてから5年での成果は、未成年者の不適切行為が7分の1に、小中学生の補導は10分の1に減少。

町民会議で進めている運動は、携帯電話禁止が目的ではない。しかし現段階では、小中学生に必要なはないという考えで運動を進め、町民の90%が賛同している。  
小中学校の授業の中で「携帯電話」について学ぶ授業を取り入れている。また、PTAに対しては、随時指導を実施。



パネリスト  
栃木県PTA連合会監事  
渡邊亜子華さん

携帯電話はツールの一つであり、子どもの心が健全ならばどんなツールも安全である。心が不健全な子どもの心の教育が大切。

依存性、学力低下はゲーム機問題と一緒。持たせないことが安全につながる。  
持たせている親は、子どものケータイ利用の実態を知らなさすぎる。  
子どもへの信頼は大切。でも、自分の子は大丈夫という考えをなくすことがポイント。



パネリスト  
大学生(宇都宮大学)  
中島 梓さん

自身の経験を踏まえた上で、中学生には携帯電話は不必要。しかし、高校生には必要と考える。ただし、持たせるにしても制限を設ける必要がある。  
ケータイ依存の原因は、交友関係や環境の問題が多い。中学生は交友関係が不安定だということをおも親も認識すべき。

コーディネーターの川島先生は、3名のパネリストの討論を次のようにまとめ提案されました。

- 1 ネット被害から守るために
    - (1) 小学校から段階的にネットの利用マナーやモラル教育が必要：特に親子で学ぶ機会が必要
    - (2) ネット規制法に基づくフィルタリングの利用
  - 2 携帯電話の依存症にさせないために
    - (1) パケットの定額制をやめる
    - (2) ブログやプロフなどのコミュニティサイトの利用禁止
    - (3) 自室での利用禁止

子どもの注意力に応じて見直しは必要
- 共通部分
- (1) 親子で顔を見て話す、一緒に食事をするなどのコミュニケーションの機会を増やす
  - (2) 不必要に利用させない(利用しない曜日をつくるなど)
  - (3) 親がお手本を示す



コーディネーター  
宇都宮大学准教授  
川島 芳昭先生



11月入会

個人

- 小泉 哲也 様 (那珂川町)
- 橋本 英子 様 (宇都宮市)
- 宮本 英男 様 (小山市)

団体

- 足利小山信用金庫 様 (足利市)
- 株式会社栃木ファミリー 様 (宇都宮市)

12月入会

団体

- 中央労働金庫栃木県本部 様 (宇都宮市)
- 下野印刷株式会社 様 (宇都宮市)
- 栃木県医師会 様 (宇都宮市)

1月入会

個人

- 飯野 達央 様 (宇都宮市)
- 瓦井 千尋 様 (壬生町)

- 仁平 康介 様 (宇都宮市)
- 奥沢 秀男 様 (佐野市)
- 坂入 三男 様 (益子町)
- 島田 好正 様 (佐野市)
- 高山 祐司 様 (壬生町)
- 平間 幸男 様 (宇都宮市)
- 皆藤 千春 様 (宇都宮市)

団体

- (株)井上総合印刷 様 (宇都宮市)

2月入会

個人

- 郡司 能熙 様 (宇都宮市)
- 齋藤 宏 様 (宇都宮市)